



「励まして育てる ～ 学習評価から～」

校長 牧 哲史

新型コロナウイルス感染の急拡大が再び進んできました。感染者もやや少なくなって落ち着いてきたのかなと思っていましたが、ここ数日間で「全国的に感染者最多を更新」というニュースが毎日のように流れています。鹿児島県の拡大状況も感染者数に顕著に現れ始め、12日は初めて15000人を超え驚かされました。霧島市でも感染者が多い市町村として毎日目が離せない状況です。

「新しい波に入ったのは間違いない」と流行「第7波」との認識を明らかにしている専門家もいます。感染者を年代別に見ると、10代及び10歳未満が3分の1以上を占めていて、今年に入り、明らかに子どもが主体の感染症に変化してきているように思います。第6波時の今年1月、子どもたちも感染拡大の影響を受け、臨時休業の措置を余儀なくされましたが、今回もまた学年によっては学級閉鎖措置を取る状況になりました。

現在の流行ウイルスは以前のものに比べ、感染力が強いと言われています。終息に向かってまだまだ先が見通せず予断を許さない状況で、今後も暮らしへの影響等心配される場所です。感染拡大がこれ以上深刻化しないことを願いながら、これからも多くの人が集まる場所でのマスク着用、手指の消毒など一人一人が基本的な感染対策をさらに徹底していくことが大切だと考えます。

さて、そのコロナ感染拡大によって、慌ただしい学期末になりましたが、1学期ももうすぐ終わりを迎えようとしています。学期を通して、学力定着に向けた学校・家庭の学習への積極的な取組、生活面「あいさつ（立ち止まって元気にあいさつする）そうじ（時間いっぱい無言ですみずみまでそうじする）はきもの（自分の靴やトイレのスリッパ等はきものをそろえる）ならぶ（しずかにさっとならぶ）略して「陵南あそはな」の取組、読書量（各自目標冊数）への挑戦等、各学級、一人一人が目標に向かって努力してきました。日々の生活の中で、それぞれ個性ある子ども達が、勉強や運動に頑張っている姿を何度も目にしてきました。残りの日々、各学級では学んできた内容を確認し、成長を認め課題を明らかにしながら、夏休みを迎えられるように指導して参ります。各家庭でも実態を把握するとともに、子ども達への称賛や励ましをお願いします。

私自身、常々「子どもの良いところを褒め、認め、自信をつけさせることが大事である」と思って話すことがありますが、それはなかなか難しいことだと思う時があります。ついその子の課題が目につき、指導や注意の方が先に・・・（そこをぐっとこらえ）、私たち大人は、子ども一人一人の良さを生かし、自分を価値ある存在として認められるよう、以下の視点で子どもに接することが大切です。（●はいけません）

◎可能性を広げる「○○をさせよう。きっと自信がつくだろう。」→ ●決めつける「○○は無理だな。」

◎良さを見つける「○○が上手になったね」→●無関心「どうせ、できないだろう」

◎励ます「忘れ物が5回だったね。来月はもっと減らせると思うよ」→●否定「また忘れ物か」

◎褒める・認める「掃除をしたことでみんな気持ちがいいよ」→●無反応・無関心「掃除するのが当たり前」

これらのことは終業式当日に配布される通知表からも見て取ることができますが、どの程度身に付いているかではなく、これからどのように声をかけていくのが、学校でも家庭でも大切なポイントだと思っています。これからも、子どもへの言葉かけを大切に、保護者の方々と子どもの可能性、長所を連携して伸ばしていくことができればと思います。



子ども達は7月21日から夏休みに入ります。今年もコロナ禍の社会状況の中で、いつもより行動範囲や活動も制限されるところがあると思いますが、ケガや事故がなく、充実させて過ごしてほしいと思います。

この1学期も、保護者の皆様、地域の皆様には大変お世話になりました。心から感謝いたします。ありがとうございました。

